

文庫も販売中

3月23日(金)から4月20日(金)まで

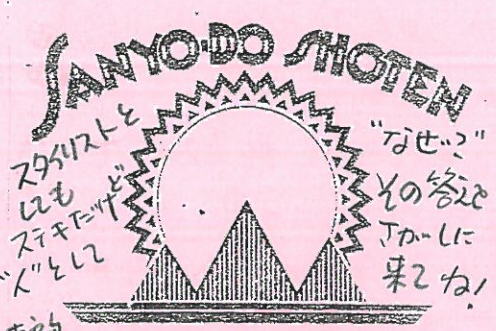
表参道のヤッコさん 展開催

懐かしい未来がまわっている！

その昔、といっても今から50年近く前、高橋靖子さんは「表参道のヤッコさん」は

山陽堂だより 31

2012年3月弥生



山陽堂書店

人生を歩んでいく。ある時代と遭遇するために、ある場所を選ぶこと、そしてそこで起ることに居合わせて、目撃者すること。若者が持つ一瞬の才能(臭覚)を、私はほとんど無意識に働かせたのだ。(河出文庫「ヤッコさん」)当時、山陽堂には住み込みの店員さんたちがいて、このセントラルアパートにも、午前便午後便と一日二回毎日のように配達に行っていたと67歳になる元店員さんが教えてくれました。広告、デザイン会社や編集者オス、女優さんにもお届けしていたようです。なにしろハイカウで、ひと皮むけてたよと。

表参道を明治通りとの交差点(チャップリンの交差点)の原宿、セントラルアパートに足を踏み入れました。

「セントラルアパートに飛び込んだことで、私は時代の波を一気にかぶることになった。私は漠然とした予感の中で

高橋靖子『表参道のヤッコさん』企画展

期間 2012年3月23日(金)～4月20日(金)

営業時間 月～金 11時～19時

土 11時～17時

休み 日・祝日

● オープニングパーティー 参加費 1000円

ヤッコさんご本人がみなさまをお迎えします。

(お飲み物の用意をさせていただいています)

3月23日(金) 18時30分～20時30分

(オープニングパーティ当日は準備のためいったん16時に閉館します)

パーティーは会費1000円でどなたでもご参加いただけます。)

● トークイベント ヤッコさんとの対談

3月30日(金) ゲスト 十文字美信氏(写真家)

4月6日(金) ゲスト 森永博志氏(編集者)

4月13日(金) ゲスト 中村のん氏(スタイリスト)

4月20日(金) ゲスト 松山猛氏(エッセイスト)

場所 ギャラリー山陽堂2階

時間 午後6時30分から

定員 20名参加費 1000円 お問い合わせ 03-3401-1309

ヤッコさんこと高橋靖子さんは、スタイリスト界の草分け的存在。

1971年単身ロンドンに渡り、山本寛斎氏のファッションショーを成功させ、その後、ジギー・スターダスト期のデヴィッド・ボウイの衣装を担当。

また、写真家、御田正義氏とデヴィッド・ボウイ、T・レックスのフォトセッションをサポートしたことも知られる。

「都会の中に田舎がある」そんな土着的パワーに満ちていた60・70年代表参道で青春時代を過ごし、今なお第一線で活躍中。

この3月河出書房新社から『表参道のヤッコさん』が文庫に生まれ変わり再登場。ぜひ皆さん文庫本片手にヤッコさんの足跡を「表参道の本屋さん」でいっしょにたどってみてください。

*ヤッコさんのサイト

<http://yacco.net>

(グループマップの地図上に1960年70年代当時の写真が！)

*ヤッコさんのブログ

http://blog.madamefigaro.jp/yasuko_takahashi/

(ヤッコさんのブログを読んで展示を見るのがおすすめです。

また、その逆もありです！)

ヤッコさんの「ヤッコさん」は、心から「ヤッコさん」を愛している。元気か、湧き出すように。

ヤッコさんに会いに来よう！ Charming & cute

「本」を通じて震災を語るー

東日本大震災出版復興基金

① 募金額 67,050円

みなさま このたびは ご協力ありがとうございました。

②/15 平凡社『本のあかろく』840円 全6本

著者いせひでこさんに語っていたことを。その本を
読んでみた。

赤ん坊のお孫さんのむこうに 無数の「いのちのかたまり」
が見えて、「生きてほしい」という思いで描いたそうである。
いせさんは、この本と367枚の絵入り手紙がききこせじカードを
福島の方たちへ自らの手で届けにきました。

②/17 新潮社『できることとほうへいから震災後に考えたこと』1470円

編集に携わった河野さん、田角さん、松本さんに、これまでこの系刊重宝
さんやほかの日さんとのお話しや、三人みな違う部署なのに一致団結
して異例の3ヶ月というスピードで創りあげたことなどについて
語ってくれました。被災地への強い思いは既成枠を越えそれを実現
させるエネルギーを生み出した。今このハロー-問われています。実行にむく
意。サライスの著者系井さんの登場に会場の方もビックリでした。

②/24 芸術新聞社『フクシマの王子さま』1680円

著者椎根和さんは『表参道のヤッコさん』にも登場します。
マガジンハウス「P-アン」「ハナコ」「ホーブ」の編集長でした。
本の中で「なにもなかった時、日本人は、まず土地をたかやうにと
から復興の第一歩をはじめるのです」と言っています。けれども今回の
原発事故により、その第一歩をふみだせなくなりました。フク
シマの人びと。原発事故以降、1300年分の昔はなしと矢口恵をもつて
ままこの世を去った100人をこえた12名の美しい人おはあちゃんの名が
フクシマの田や村の名と共に書いてあります。そのことの意味を考えさせられます。

③/2 金の星社『いのちのくりびと』1365円
ー 東日本大震災 復興絵本館

著者の今西乃子さんは、被災地の方たちから本当に求めている
支援はなんなのか、よく考えてみなねえかと言いました。

被災者の方たちにとっては、かしの山も 宝の山です。

死者に在りし日のほほ笑みを追い求めてきた全国でも数少ない
復興絵本館 館長 留似子さんを追った著者は「遺族が本当に求めている
は、被災地での暮らしをさっさとしたい」と話してくれました。